



欄に数値またはコメントを記入

1. 建物概要						
建物名称	(仮称)ルーキーレーシングガレージ(建物1-2)	BEE	1.4	BEEランク	B+	★★★

2. 重点項目への取組み度					
重点項目	得点*/満点		取組み度	評価	
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	3.5	/5		ふつつ	
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	3.0	/5		ふつつ	
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	3.3	/5		ふつつ	
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	2.8	/5		がんばろう	
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例	よい 4 点以上	ふつつ 3 点以上	がんばろう 3 点未満

3. 重点項目についての環境配慮概要		内訳対応項目	
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。			
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)		得点	3.5
<ul style="list-style-type: none"> ■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) <ul style="list-style-type: none"> ①外壁U値:1.5、床:0.9、窓システムのSC:0.73 η:0.68 ④主要内装仕上げ材は更新間隔の長い耐用 ④給排水配管はB使用 ■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) <ul style="list-style-type: none"> 特に配慮なし ■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) <ul style="list-style-type: none"> ⑦BPIm=0.64 ■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) <ul style="list-style-type: none"> ⑪自動水栓・省水型機器の採用 ⑫分別を容易にする部材の採用(LGS) ■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) <ul style="list-style-type: none"> ⑭LCCO2排出率:87% 	Q-1 2 2.1 2.1.2 ① Q-1 3 3.1 3.1.3 ② 3.2 3.2.1 ③ Q-2 2 2.2 2.2.1 ④ 2.2.2 ④ 2.2.3 ④ 2.2.4 ④ 2.2.5 ④ 2.2.6 ④	① 外皮性能 ② 昼光利用設備 ③ 昼光制御 ④ 躯体材料の耐用年数 ④ 外壁仕上げ材の補修必要間隔 ④ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔 ④ 空調換気ダクトの更新必要間隔 ④ 空調・給排水配管の更新必要間隔 ④ 主要設備機器の更新必要間隔	
	Q-3 1 3 3.2	⑤ 生物環境の保全と創出 ⑥ 敷地内温熱環境の向上	
	LR-1 1 2 3 4 4.1 4.2	⑦ 建物外皮の熱負荷抑制 ⑧ 自然エネルギー利用 ⑨ 設備システムの高効率化 ⑩ モニタリング ⑩ 運用管理体制	
	LR-2 1 1.1 1.2 1.2.1 1.2.2 ⑪ 2 2.1 2.2 2.3 2.4 2.5 2.6 3 3.1 3.2 3.2.1 3.2.2 3.2.3 ⑬ ⑬	⑪ 節水 ⑪ 雨水利用システム導入の有無 ⑪ 雑排水等利用システム導入の有無 ⑫ 材料使用量の削減 ⑫ 既存建築躯体等の継続使用 ⑫ 躯体材料におけるリサイクル材の使用 ⑫ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材 ⑫ 部材の再利用可能性向上への取組み ⑬ 有害物質を含まない材料の使用 ⑬ 消火剤 ⑬ 断熱材 ⑬ 冷媒	
LR-3 1 2 2.2	⑭ 地球温暖化への配慮 ⑮ 温熱環境悪化の改善		
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)		得点	3.0
<ul style="list-style-type: none"> ■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) <ul style="list-style-type: none"> ⑰機械・配管支持方法:耐震クラスA 	Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯ 2.1.2 ⑯ 2.4 2.4.1 ⑰ 2.4.2 ⑰ 2.4.3 ⑰ 2.4.4 ⑰ 2.4.5 ⑰	⑯ 耐震性 ⑯ 免震・制振性能 ⑰ 空調・換気設備 ⑰ 給排水・衛生設備 ⑰ 電気設備 ⑰ 機械・配管支持方法 ⑰ 通信・情報設備	
	Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑱⑲ 3 3.1 3.1.1 ⑲ 3.1.2 ⑲	⑱ ユニバーサルデザイン計画 ⑲ 階高のゆとり ⑲ 空間の形状・自由さ	
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)		得点	3.3
<ul style="list-style-type: none"> ■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) <ul style="list-style-type: none"> ⑲【飲食店】4.30m、【事務所】4.14m ⑲壁長さ比率:0.20に抑え空間の自由度を高く設計 ■室外環境(敷地内)対策 (⑲地域性・アメニティへの配慮) <ul style="list-style-type: none"> 特に配慮なし 	Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑱⑲ 3 3.1 3.1.1 ⑲ 3.1.2 ⑲	⑱ ユニバーサルデザイン計画 ⑲ 階高のゆとり ⑲ 空間の形状・自由さ	
	Q-3 3 3.1	⑲ 地域性への配慮、快適性の向上	
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)		得点	2.8
<ul style="list-style-type: none"> ■室外環境(敷地内)対策 (⑲生物環境の保全と創出/⑳まちなみ・景観への配慮/⑥敷地内温熱環境の向上) <ul style="list-style-type: none"> 特に配慮なし ■敷地外環境対策 (⑲持続可能な森林から産出された木材/⑮温熱環境悪化の改善) <ul style="list-style-type: none"> 特に配慮なし 	Q-3 1 2 3 3.2	⑲ 生物環境の保全と創出 ⑲ まちなみ景観への配慮 ⑥ 敷地内温熱環境の向上	
	LR-2 2 2.5 LR-3 2 2.2	⑲ 持続可能な森林から産出された木材 ⑮ 温熱環境悪化の改善	

CASBEE® - 建築(新築)

評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.01)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)ルーキーレーシングガレージ(建物1-2)	階数	地上3階
建設地	静岡県駿東郡小山町大御神字小玉	構造	S造
用途地域	市街化調整区域、指定なし	平均居住人員	230 人
地域区分	5地域	年間使用時間	2,800 時間/年(想定値)
建物用途	事務所、飲食店、集会所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年12月 予定	評価の実施日	2022年12月9日
敷地面積	4,599 m ²	作成者	久保田 敬亮
建築面積	2,021 m ²	確認日	
延床面積	3,651 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.4

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

① 参照値: 100% (138 kg-CO₂/年・m²)

② 建築物の取組み: 87% (120 kg-CO₂/年・m²)

③ 上記+②以外の: 87% (120 kg-CO₂/年・m²)

④ 上記+: 87% (120 kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.2

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.5

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.4

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.7

LR のスコア = 3.4

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.3

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.4

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.4

3 設計上の配慮事項		
総合	レース車両の展示場として、富士スピードウェイ近郊の地域振興に貢献する建物を目指します。これはCASBEE静岡(2016年版)による評価結果です。	その他 特になし
Q1 室内環境	吹き抜け空間のガラス面は大部分において北向きとし、大気環境空間への熱負荷の軽減と空調負荷への配慮を行っています。その他の開口部へはロールスクリーンを設け光環境への配慮を行っています。	Q3 室外環境(敷地内) 外構に帯状の連続した植栽帯を設けることで、まとまりのある緑量を確保しています。また、外壁の色彩を無彩色とすることで、周辺景観からの突出を避けるよう配慮を行っています。
LR1 エネルギー	吹き抜け空間、カフェテリア、休憩室等の主たる居室においては北面を主採光面とし、安定した自然採光が可能となるよう配慮を行っています。	LR3 敷地外環境 日影規制を満たし、日照阻害のない計画としています。適切な量の駐車場を確保しています。
Q2 サービス性能	事務所、休憩室(1)等の執務室に相当する部屋はOAフロアとし、レイアウト変更へ配慮しました。また、ギャラリースペースにおいては床コンセントを適宜配置することで空間利用の自由度を確保しています。各階階高は3.9m以上とし、空間のゆとりへ	
LR2 資源・マテリアル	躯体と仕上材を容易に分別可能とし、部材の再利用可能性向上へ配慮しています。	

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される